

群の中から3冊は読んでほしい。群の86は経済史統計および若干の文書史料集として簡便で利用価値が高く、必携に近いが、残念ながら在庫切れで古書店で入手するか、図書館で借りてコピーするしかない。このほか、～群から各1ないし2冊ずつ読めば、多少は複眼的な思考も養われるであろう。19世紀ないし第1次大戦前までのヨーロッパ経済を概説したものは少ないが(外国語でも同様)、5～8と11, 14がお奨め。20世紀のヨーロッパ経済については最近いくらか出てきたが(15～20, 22など)、アメリカへの言及が概して薄いため、ここでは29と36を特に紹介しておく。このほか、各国別・時期別・テーマ別のモノグラフは膨大に(外国語ではほとんど無限に)あるから、関心のある者は相談されたい。および群に関する書物も最近続々と刊行されているため、到底網羅できない。今年度のリストでは古いものを大幅に削除したが、それでも10点増えた。・について外国語では、英語文献は限られており(54と55の史料集は有益)、多くはヨーロッパ大陸の諸言語で書かれているため省略した。このリストの中で小野塚が書いているのは、18, 28, 37, 40, 81である。経済史の基礎ができていないと思う者は群の書物で補ってほしい。移民、社会的排除/社会的統合、余暇、言語・文化などヨーロッパ社会の現状に関する文献も非常に多いので完全に省略した。

### 教科書に準ずるもの

- 1 藤瀬浩司『新訂 欧米経済史 - 資本主義と世界経済の発展 - 』日本放送出版協会、1999年。
- 2 原輝史・工藤章編『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣、1996年。
- 3 H.ケルブレ『ひとつのヨーロッパへの道 - その社会史的考察 - 』日本経済評論社、1997年。
- 4 遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会、2008年。

### 19～20世紀のヨーロッパ経済史に関する文献

- 5 E.J.ホブズボーム『市民革命と産業革命 - 二重革命の時代 - 』岩波書店、1968年。
- 6 E.J.ホブズボーム『産業と帝国』未来社、1984年。
- 7 E.J.ホブズボーム『資本の時代 1848-1875』1・2 みすず書房、1981,82年。
- 8 E.J.ホブズボーム『帝国の時代 1875-1914』1・2 みすず書房、1993年,98年。
- 9 E.J.ホブズボーム『20世紀の歴史 - 極端な時代 - 』上・下 三省堂、1996年。
- 10 E.J.ホブズボーム『ナショナリズムの歴史と現在』大月書店、2001年。
- 11 吉岡昭彦『近代イギリス経済史』岩波書店、1981年。
- 12 吉岡昭彦『帝国主義と国際通貨体制』名古屋大学出版会、1999年。
- 13 ハーパート・フェイス『帝国主義外交と国際金融 1870-1914』筑摩書房、1992年。
- 14 藤瀬浩司『資本主義世界の成立』ミネルヴァ書房、1980年。
- 15 権上康男・廣田明・大森弘喜編『20世紀資本主義の生成 - 自由と組織化 - 』東京大学出版会、1996年。
- 16 廣田功・森建資編著『戦後再建期のヨーロッパ経済 - 復興から統合へ - 』日本経済評論社、1998年。
- 17 廣田功・奥田央・大澤真理編『転換期の国家・資本・労働 - 戦間期の比較的研究 - 』東大出版会、1988年。
- 18 秋元英一・廣田功・藤井隆至編『市場と地域 - 歴史の視点から - 』日本経済評論社、1993年。
- 19 工藤章編『20世紀資本主義 覇権の変容と福祉国家』東京大学出版会、1995年。
- 20 東京大学社会科学研究所『20世紀システム2 経済成長 基軸』東京大学出版会、1998年。
- 21 藤瀬浩司・吉岡昭彦編『国際金本位制と中央銀行政策』名古屋大学出版会、1987年。
- 22 藤瀬浩司編『世界大不況と国際連盟』名古屋大学出版会、1994年。
- 23 ベレンドノ・ラーンキ『ヨーロッパ周辺の近代 1780～1914』刀水書房、1991年。
- 24 ルネ・ジロー『国際関係史1871～1914年 ヨーロッパ外交、民族と帝国主義』未来社、1998年。
- 25 島田悦子『欧州経済発展史論 - 欧州石炭鉄鋼共同体の源流 - 』日本経済評論社、1999年。
- 26 篠原一『ヨーロッパの政治 [ 歴史政治学試論 ]』東京大学出版会、1986年。
- 27 柴田三千雄『近代世界と民衆運動』岩波書店、1983年。
- 28 藤田幸一郎『狂気の近代』花伝社/共栄書房、1988年。
- 29 秋元英一『アメリカ経済の歴史 1492-1993』東京大学出版会、1995年。
- 30 奈倉文二・横井勝彦・小野塚知二『日英兵器産業とジューメンズ事件 - 武器移転の国際経済史 - 』日本経済評論社、2003年。
- 31 玉田美治『フランス資本主義 戦間期の研究』桜井書店、2006年。
- 32 戸原四郎『ドイツ資本主義 戦間期の研究』桜井書店、2006年。
- 33 古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会、2007年。
- 34 権上康男編著『新自由主義と戦後資本主義 欧米における歴史的経験 』日本経済評論社、2006年。
- 35 上川孝夫・矢後和彦『国際金融史』有斐閣、2007年。
- 36 須藤功『戦後アメリカ通貨金融政策の形成 ニューディールから「アコード」へ 』名古屋大学出版会、2008年。
- 37 小野塚知二編著『自由と公共性 介入的自由主義とその思想的起点 』日本経済評論社、2009年。
- 38 Lee A.Criag & Douglas Fisher, The Integration of the European Economy, 1850-1913, Macmillan, 1997.
- 39 P.M.H.Bell, France and Britain 1900-1940: Entente and Estrangement, Longman, 1996.

## ヨーロッパ統合史に関する文献

- 40 永岑三千輝・廣田功編『ヨーロッパ統合の社会史 - 背景・論理・展望 - 』日本経済評論社、2004年。
- 41 ロベール・フランク『欧州統合史のダイナミズム - フランスとパートナー国 - 』日本経済評論社、2003年。
- 42 木畑洋一編『ヨーロッパ統合と国際関係 』日本経済評論社、2005年。
- 43 廣田功編『現代ヨーロッパの社会経済政策：その形成と展開 』日本経済評論社、2006年。
- 44 廣田功編『欧州統合の半世紀と東アジア共同体』日本経済評論社、2009年。
- 44a 石山幸彦『ヨーロッパ統合とフランス鉄鋼業』日本経済評論社、2009年。
- 45 小島健『欧州建設とベルギー 統合の社会経済史的研究 』日本経済評論社、2007年。
- 45a 益田実『戦後イギリス外交と対ヨーロッパ政策』ミネルヴァ書房、2008年。
- 46 川嶋周一『独仏関係と戦後ヨーロッパ国際秩序 ドゴール外交とヨーロッパの模索 1958-69 』創文社、2007年。
- 47 S.ポラード『ヨーロッパの選択 - 経済統合への途 1815～1970年 - 』有斐閣、1990年。
- 48 原輝史『EU経営史』税務経理協会、2001年。
- 49 清水貞俊『欧州統合への道 - ECからEUへ - 』ミネルヴァ書房、1998年。
- 50 Desmond Dinan, Ever Closer Union: An introduction to European Integration, Lynne Rienner Publ., 2005.
- 51 Desmond Dinan, Origins and Evolution of the European Union, Oxford university Press, 2006.
- 52 Michel Dumoulin, ed., Réseaux économiques et construction européenne, P.I.E.Peter Lang, 2004.
- 53 Hartmut Kaelble, Europäer über Europa; Die Entstehung des europäischen Selbstverständnisses im 19. und 20. Jahrhundert, Frankfurt, 2001.
- 54 Trevor Salmon & William Nicol eds., Building European Union: A Documentary History and Analysis, Manchester University Press, 1997.
- 55 A.G.Harryvan & J.van der Harst eds., Document on European Union, Macmillan, 1997.
- 56 P.M.H.Bell, France and Britain 1940-1994: The Long Separation, Longman, 1997.
- 57 Alan S. Milward, The European rescue of the nation state, Routledge, 1992
- 58 Martin J.Dedman, The Origins and Development of the European Union 1945-95, Routledge, 1996.
- 59 John Gillingham, European Integration 1950-2003: Superstate or New Market Economy?, Cambridge University Press, 2003.

## EUの現状および東アジア共同体論に関する文献

- 60 島野卓爾・岡村堯・田中俊郎編著『EU入門 - 誕生から、政治・法律・経済まで - 』有斐閣、2000。
- 61 内田勝敏・清水貞俊編著『EU経済論 - 拡大と変革の未来像 - 』ミネルヴァ書房、2001年。
- 62 田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治『現代ヨーロッパ経済』有斐閣アルマ、2001年。
- 63 岡伸一『欧州統合と社会保障 - 労働者の国際移動と社会保障の調整 - 』ミネルヴァ書房、1999年。
- 64 前田充康『EU拡大と労働問題』日本労働研究機構、1998年。
- 65 濱口桂一郎『EU労働法の形成 - 欧州社会モデルに未来はあるか? - 』日本労働研究機構、1998年。
- 66 田中俊郎『EUの政治』岩波書店、1998年。
- 67 田中俊郎・庄司克宏編『EU統合の軌跡とベクトル』慶應義塾大学出版会、2006年。
- 68 前田啓一『EUの開発援助政策 ロメ協定の研究 』御茶の水書房、2000年。
- 69 佐々木隆生・中村研一編著『ヨーロッパ統合の脱神話化 - ポスト・マーストリヒトの政治経済学 - 』ミネルヴァ書房、1994年。
- 70 深山明編著『EUの経済と企業』御茶の水書房、2004年。
- 71 H.-E.シャーラーほか『ユーロとEUの金融システム』日本経済評論社、2003年。
- 71a 高屋定美『EU通貨統合とマクロ経済政策』ミネルヴァ書房、2009年。
- 72 松浦一悦『EU通貨統合の新展開』ミネルヴァ書房、2005年。
- 73 齋藤淳『進化する欧州中央銀行 ユーロ番人の素顔』日本経済評論社、2006年。
- 74 田中宏『EU加盟と移行の経済学』ミネルヴァ書房、2005年。
- 75 中村民雄編『EU研究の新地平』ミネルヴァ書房、2005年。
- 76 羽場久美子・小森田秋夫・田中素香編『ヨーロッパの東方拡大』岩波書店、2006年。
- 76a 鷺江義勝『リスボン条約による欧州統合の新展開 EUの新基本条約 』ミネルヴァ書房、2009年。
- 77 佐藤幸男監修、高橋和、臼井陽一郎、浪岡新太郎著『拡大EU辞典』小学館、2006年。
- 78 佐藤東洋士・李恩民『東アジア共同体の可能性 日中関係の再検討 』御茶の水書房、2006年。
- 79 進藤榮一・平川均『東アジア共同体を設計する』日本経済評論社、2006年。
- 80 B.Laffan, R.O'Donnell & M.Smith, Europe's Experimental Union: Rethinking Integration, Routledge, 2000.

## その他の概説書など

- 81 馬場哲・小野塚知二編『西洋経済史学』東京大学出版会、2001年。
- 82 石見徹『世界経済史』東洋経済新報社、1999年。
- 83 関口尚志・梅津順一『欧米経済史 - 近代化と現代 - 』放送大学教育振興会、1995年。
- 84 神武庸四郎・萩原伸次郎『西洋経済史』有斐閣Sシリーズ、1989年。
- 85 柄谷行人『世界共和国へ 資本=ネーション=国家を超えて』岩波新書、2006年。
- 86 宮崎犀一・奥村茂次・森田桐郎編『近代国際経済要覧』東京大学出版会、1981年。
- 87 アンガス・マディソン『世界経済の成長史1820～1992年 - 199カ国を対象とする分析と推計 - 』東洋経済新報社、2000年。
- 88 ブライアン・R・ミッチェル『ヨーロッパ歴史統計1750-1993』東洋書林、2001年。